

2024年度札幌大谷大学／札幌大谷大学短期大学部 出張講義一覧

INDEX

【音楽学科】	1
【美術学科】	6
【地域社会学科】	11
【保育科】	18

【音楽学科】

■出張講義

申込番号	分野	担当	講義名	講義内容	講師プロフィール
M-1	実技系 (ピアノ)	教授 谷本聡子	アンサンブルの愉しみ	音楽は皆でも一人でもアンサンブル。 室内楽を演奏する上での役割と愉しみを、演奏を交えながらお話しします。	ハンガリーリスト音楽芸術大学卒業。日本人初のソリストディプロマを取得。ドイツフライブルク音楽大学院修了。ダルムシュタット、ボストン、ベルリン八重奏団、新ブダペストやケラー弦楽四重奏団、ザルツブルグソリスト他、チェコのペレーニ等ソリストと、Bp弦楽合奏団、シティオケ、札幌、日本フィル等と共演。ヨーロッパ、カナダ、アメリカ、ロシアで演奏。PMFでウィーンフィルの首席達と共演。ルガーノ、ブダペスト春・秋の音楽祭出演。札幌市民芸術祭大賞、札幌市民文化奨励賞、'17年、ハンガリー政府より、文化勲章受賞。'20札幌芸術賞受賞
M-2	実技系 (ピアノ)	准教授 鎌倉亮太	伴奏のおもしろさ	ピアニストには、ソロを弾くだけではなく、ほかの楽器や合唱などと一緒に弾く「伴奏」の役割があります。伴奏とは、誰かに合わせて、後ろからついていくものではありません。時には指揮者の役割、演出家の役割も担う、大変面白いものです。上手な伴奏とはどんなものなのか、そのコツについて演奏を交えながらお話しします。	北海道教育大学札幌校芸術文化課程卒業及び、同大学大学院修士課程修了。フィンランド国立シベリウス音楽院へ留学。留学中クフモ室内楽音楽祭に参加。2006年札幌市民芸術祭大賞を受賞。2013年第12回中田喜直記念コンクールにおいてNHK旭川放送局賞、三浦洋一賞を受賞。 ピアニスト、指揮者として活動の幅を広め、2008年より、室内楽グループkuhmo'zを結成、全国各地で演奏会を実施し、札幌コンサートホールkitaraでのリサイタル公演を含め公演数は30回以上を重ねる。 また、北海道二期会「不思議の国のアリス」、「ショパン」（いずれも北海道初演）、kitara主催オペラ「ヘンゼルとグレーテル」の指揮を務める。 2019年度より、本学音楽総合コース主任として就任。

M-3	講義系 (音楽総合)		コンサートができるまで ～音楽のお仕事～	<p>「音楽のお仕事」とはどんなものを想像しますか？ 演奏家、指導者、教師・・・実はそれ以外にも、音楽に携わる仕事はたくさんあります。例えば、ひとつのコンサートを開催するうえで、どれだけ多くの人に関わっているのでしょうか。舞台の上に立っている演奏家以外にも、様々な方が裏方として関わっています。</p> <p>コンサートスタッフ、プロデューサー、オーケストラマネージャー、オペラの舞台スタッフなど、コンサートを作り上げるうえで、お客様から見えないたくさんの仕事があります。</p> <p>本講義では、そんな音楽を生かした様々なお仕事についてご紹介します。</p>	
M-4	実技系 (声楽)	教授 三山博司	良く響く声・明瞭な発音を身につけよう ～より良い独唱・合唱を目指して～ (兼・合唱部指導)	<p>「声」という楽器の特性を理解し、良く響かせるためにブレス(息)や体の使い方を初歩からわかりやすく学んでいきます。そして声のテクニックを使って美しい発音(特に日本語)で歌うことを実践します。また作曲家がどのように考えてテキスト(詩)に旋律やハーモニーを付けたかを楽譜を手掛かりに一緒に考えていきましょう。</p>	<p>東京藝術大学音楽学部声楽科卒業。同大学院修士課程修了。博士後期課程満期退学。博士後期課程ではB・プリテンなどの20世紀イギリス歌曲を研究する。受難曲の福音史家や、バッハ、ヘンデル、モーツァルト、ベートーヴェンなどの宗教曲および「第九」のテノールソロを数多く務め、オペラではマスネ「ウェルテル」のタイトルロールをはじめ、多くのフランス・オペラ、オペレッタに出演している。これまでにイギリス歌曲や日本歌曲・フランス歌曲を中心としたリサイタルを開く。 札幌合唱連盟副理事長。</p>
M-5	実技系 (声楽)	准教授 針生美智子	良い声で歌おう	<p>声は1人1人の身体が違う様に、唯一無二の楽器です。楽器＝身体をどう意識したら良い声になるのか、その意識の仕方、訓練の仕方をお伝えします。</p> <p>声の妙技である「オペラ」の作品に触れながら、演奏を交えて、お話しします。</p>	<p>小樽市出身。札幌大谷短期大学卒業、同専攻科修了。文化庁オペラ研修所第11期修了。道文化財団、文化庁在外研修員としてローマに留学。第2回藤沢オペラコンクール第1位他多数受賞。新国立劇場「イエヌーファ」「パルジファル」「夕鶴」二期会、松本オペラ「魔笛」のほか、東京オペレッタ劇場「紅いりんご」「こうもり」「天国と地獄」「ジェロルシュタンの女大公」「魔笛」のほか、「コジ・ファン・トゥッテ」「電話」「リタ」「絹のはしご」など多数出演。二期会会員。</p>

M-6	実技系 (クラリ ネット、木 管楽器 及び合奏)	准教授 河野泰幸	いい音を出そう (部活指導)	どの楽器にも、それぞれ【いい音】があります。【いい音】で演奏しているバンドは、それだけでずっと聴いていたいと思います。 そのような音を出すためには、一人一人のメンバーやバンド全体の特征や個性に応じた、日々のトレーニング方法を見つけることが非常に大切です。みんなで音を出しながら、本物の音を手に入れる方法を考えましょう。	京都市立堀川高校音楽科、東京藝術大学音楽学部を経て、シュトゥットガルト芸術大学修了。在独中、リューベック歌劇場、プフォルツハイム市立劇場のクラリネット奏者として研鑽を積む。海川雅富、村井祐児、三界秀実、ヴォルフガング・マイヤー、ノルベルト・カイザーの各氏に師事。第10回京都芸術祭で「京都市長賞」受賞。「Trio Rintonare」のコンサートが評価され青山財団より2008年度バロックザール賞を受賞。2022年度札幌市民芸術祭奨励賞受賞。現在、札幌大谷高校音楽科非常勤講師。
M-7	実技系 (クラリ ネット、木 管楽器 及び合奏)		木管楽器の今と昔	今はもう演奏されることが少ない昔の楽器(古楽器)から現代の楽器(木管・クラリネット)まで、どのように楽器が進化していったのか？紆余曲折が有り今の形になりました。演奏を交えながら説明します。	
M-8	実技系 (金管楽器)	教授 大隅雅人	金管楽器の基礎練習および全体合奏指導。	音楽を奏する時に、豊かな幅広い響きで、自由に演奏できるとどんなに素晴らしいでしょう？素晴らしい音色や柔軟性を得る為の練習方法や、息づかいがとても重要になってきます。30年以上務めた一流のプロのオーケストラでの経験を生かし、皆さんと一緒に音を出しながら、あなたにとってベストな練習メニューを考えます。 また現在バンドで取り組んでいる曲をもとに全体合奏を指導し、音楽の組み立てやハーモニーなどの完成度を向上させるレッスンをしていきます。	札幌出身。日本大学芸術学部音楽学科在学中より東京シティフィル、東京交響楽団、東京佼成ウインド等へ客員。東京金管五重奏団第一トランペット奏者、新星日本交響楽団団員(現、東京フィル)を経て東京交響楽団へ首席奏者として入団。文化庁在外研修員制度によりニューヨーク、マネス音楽院へ留学し、ニューヨークフィル V・ペンツァレラ氏に師事。呼吸法を元シカゴ交響楽団チューバ奏者故A・ジェイコブス氏に師事。第4回日本管打楽器コンクール第3位入賞。元 東京交響楽団首席トランペット奏者。

M-9	講義系 (音楽概論・ 音楽史)	教授 千葉潤	音の不思議 遊びながら 学ぶ音の仕組み	物理現象でもあり、音楽の基礎でもある「音」は、不思議な魅力をもっています。ばね電話やグラスのハーモニカ等での実験を通して、音の謎に迫ります。	東京藝術大学大学院音楽研究科後期博士課程満期退学、ロシア国立モスクワ音楽院大学院音楽理論科修了。2003年に芸術学カンディダート (Ph.D) 取得。洗足音楽大学、くらしき作陽大学、北海道教育大学等の非常勤講師を歴任。専攻は音楽学・現代ロシア音楽。著書に「作曲家人と作品 ショスタコーヴィチ」(音楽之友社)、「アリフレド・シュニトケの交響的創作：間テキスト分析の試み」(モスクワ・コンポジットル社、露語)。共編著に「ロシア音楽事典」(カワイ出版)など。
M-10	講義系 (音楽概論・ 音楽史)		吹奏楽の歴史と文化	身近に接している吹奏楽や管楽器・打楽器の生い立ちを知っていますか。面白い格好をした過去の楽器や、様々な器楽合奏の例を辿りながら、吹奏楽の誕生や楽器の変化を振り返ってみましょう。	
M-11	講義系 (作曲)	教授 小山隼平	もうBGMとは呼ばせない	映画やテレビを見ていると、あるシーンに音楽が流れたりしますね。だいたい音楽はシーンの内容に「合わせて」付けられると、多くの人が考えます。でももし、音楽の方が主導権を握るとしたら？ ただのBGMにはならない「付随音楽」の力を、選曲をしながら感じていきましょう。	東京藝術大学音楽学部作曲科卒業。北海道教育大学大学院教育学研究科修了。2008年奏楽堂日本歌曲コンクール・一般の部で、寺山修司の詩による「四つのちぎれた歌」が第1位を受賞。第2回TIAA全日本作曲家コンクール・室内楽部門では「オーボエ五重奏曲」が第2位を受賞。また、俳優座劇場プロデュース公演「音楽劇 わが町」でピアニストを務めるなど、演劇の分野での活動も行っている。現在、北海道教育大学教育学部教員養成課程講師(非常勤)。
M-12	講義系 (作曲)		身近な音楽を考える	ポピュラー音楽、劇伴音楽、アニソン、施設やお店で流れるBGMなど、私たちの身の回りにはいろいろな音楽があります。普段の生活の中で、なんとなく耳にしている音楽たちについて、ちょっと真剣に考えてみるのも面白そうです。割と意外な発見があるかもしれません。	

M-13	体験ワークショップ系 (音楽療法)	教授 高田由利子	コミュニケーション力を 養おう！	<p>音楽療法士に求められる能力の一つにコミュニケーション力があります。主に『聴く力』、『観察力』そして『共感する力』などを高めていくことでコミュニケーション力は向上されます。講義では、『音を媒体としたコミュニケーション・トレーニング』の概要を学び、聴く力や観察力などの手法を用いて実際にコミュニケーション力が高まるワークを体験してみましよう。終了後にコミュニケーション力が上がっていることに気がつくでしょう。</p>	<p>洗足学園音楽大学音楽学部器楽学科ピアノ専攻卒業。同大学付属音楽療法臨床センターにおいて音楽療法の実習指導に携わる。その後、米国留学し、レズリー大学大学院表現アーツ学科音楽療法・メンタルヘルスカウンセリング科修士課程修了。ニューヨーク、ノードフ・ロビンズ音楽療法センターにてディプロマ取得。東京大学大学院学際情報学府文化・人間情報学コース博士課程満期退学。日本音楽療法学会認定音楽療法士。ノードフ・ロビンズ音楽療法士。共編著に「ケースに学ぶ音楽療法Ⅰ」（岩崎学術出版社,2017）。</p>
M-14	講義系 (音楽療法)		音・音楽のもつコミュニケーションの力について	<p>音楽療法は音楽を用いた心理療法とされているように、音や音楽を用いてクライアントの問題や悩みを解決していきます。では、カラオケも音楽療法と言えるのでしょうか？治療アプローチを援用することによって、十分に音楽療法になります。その治療アプローチを学ぶことで、音楽が個人レベルから地域や社会などのマクロレベルに対し、どのように貢献できるかを学んでみたいと思います。好きな音楽の聞き方が変わるかもしれません。</p>	

【美術学科】

■出張講義（講義系） ※実技系の講義は「がんばれ！美術の時間」に記載していますのでご覧ください。

申込番号	分野	担当	講義名	講義内容	プロフィール
A-1	講義 (進路指導)	全教員対応	美術・デザインの学びと仕事	美術・デザインの学びによってどのようなことが養われるのか、そしてどのように社会や仕事と繋がるのかについて、身近な例をもとに紹介します。	
A-2	講義 (絵画)	教授 松村 繁	偶然性が喚起するもの	様々な作品の中から、偶然の効果を生かして制作している作家を取り上げます。彼等がどの様にして、画材の様々な表情を引き出し、その効果と自身の内面世界をつなげて制作しているのかを探っていきます。	1984年3月 武蔵野美術大学造形学部油絵学科卒業（芸術学士）。1986年3月武蔵野美術大学大学院造形研究科修士課程（美術専攻）修了（芸術学修士）。現在、札幌大谷大学芸術学部美術学科教授、武蔵野美術大学造形学部通信教育非常勤講師兼任、過去に白日会 白日賞、安田火災美術財団奨励賞を受賞。専門分野は油彩とテンペラ絵具による混合表現。
A-3	講義 (現代美術)	教授 今 義典	コンテンポラリーアートの最前線	世界各国の最先端芸術を動画や写真を交え、分かりやすく解説していきます。	東京藝術大学美術学部絵画科油画専攻(美術学士)終了後(1992年)、東京藝術大学美術学部大学院美術研究科美術修士(1994年)修了。ドイツ政府給費留学(DAAD)クンストアカデミーデュッセルドルフ写真学科入学(1995年)、3年間のドイツ滞在後1998年帰国。2001年より東京藝術大学美術学部附属写真センター常勤助手6年を経て、2008年本学着任。現在芸術学部美術学科メディア表現領域教授。専門は現代美術。主にコンテンポラリーアートでの写真・映像表現をベースに研究を行っている。90年代から現在まで国内外で発表を行う。
A-4	講義 (写真)		記録としての写真、表現としての写真	写真を大きく3つに大別すると、記録の特性が強い「報道写真」と、美しさやある種の問題提起をしていく「芸術写真」、そして商品の販売促進のための「広告写真」などおおまかに3つに大別されます。 この講座ではこれらのジャンルについて焦点を当て、様々な写真作品を紹介していきます。	

A-5	講義 (美術教育)	教授 平向功一	わたしたちは何を描いて成長してきたか	0歳から小学校卒業までの子どもたちの造形表現は単純な身体表現からはじまり心理的な発達とともにどんどん変化していきます。この講義では実際の子どもの絵を見ながらその発達過程について解説します。また世界中の子どもの絵を紹介します。	北海道教育大学教育学部札幌分校特別教科(美術・工芸)卒業。同大学大学院修了。本学では日本画専攻を担当。道内外の展覧会に出品。また、教職授業の美術教育も担当。美術教師を目指す学生が中心となり、スクールミュージアム(鑑賞授業)や大型のアートワーク(表現活動)などを行うオオタニアートキャラバンを道内各地の学校で展開している。小学校・中学校の教科書編集にも携わる。
A-6	講義 (日本画)		日本画のひみつ	日本画の魅力は日本ならではの考え方や技法、独特な画材・道具にあります。素材に触れる、金箔を貼るなどの体験をしながら、日本画の歴史や画材、伝統的な技法などを通して日本画と日本文化を深く学びます。	
A-7	講義 (日本絵画)		琳派にふれる	琳派とは伝統的なやまと絵の手法を洗練させ、明快な構図と華やかな色彩で描かれた装飾性の高い絵画様式のことをさします。本授業では琳派の歴史を学習しながら伝統的な日本絵画の世界を学びます。	
A-8	講義 (版画)	講師 吉田潤	浮世絵アヴァンギャルド	意外と知らない浮世絵の世界。何がそんなに凄いのか!?モネやゴッホにも影響を与えた、庶民のための摺りもの(印刷物)には色々な仕掛けが隠されています。「美術」という概念がなかったからこそ生まれたユーモア溢れる魅惑な世界を、作品ごとに解説しながら紹介します。	東京藝術大学美術学部日本画科専攻卒業・同大学大学院美術研究科修士課程版画専攻修了。同大学教育研究助手、京都精華大学版画専攻の特任講師、東京藝術大学の非常勤講師を経て現職。専門は版画、日本画。版画的思考法によるミクストメディアの作品を制作。個展やグループ展、国内外でのアートフェアなど展覧会多数。

A-9	講義 (彫刻)	教授 藤本和彦	モデリングとカービング、 その間やその先	<p>モデリング、カービングというと、彫刻の分野で一般的に使われる技術や考え方ですが、素材や方法から、どちらとも決め兼ねるものもあり、そこで生み出されたものを、20世紀から総称として、オブジェと呼ばれてきました。ですが現在では細分化が進んだり、そことも違った考え方が、ちらほらと・・・「立体表現」の捉え方を少し膨らませてみましょう。</p>	<p>北海道生まれ。北海道教育大学教育学部札幌分校特別教科（美術・工芸）卒業。本学では塑造や石膏直付け、石彫など、立体表現専攻の授業を担当。</p> <p>国内、国外の展覧会に出品。研究では、様々な「素材」と「物体」「思考」の関係性を探り、表現としての適したクオリティのあり方や「場」など、成立の要素に興味を持ち制作。現在 北海道美術協会会員</p>
A-10	講義 (絵画)	教授 佐々木剛	デッサンについて	<p>人間はどのように世界を認識し、2次元で表現してきたか。歴史と土地、民族の違いによるデッサンの違いや変遷を考えてみましょう</p>	<p>武蔵野美術大学大学院造形研究科油彩専攻修了（修士。共通基礎、デッサン、油彩の科目担当。全道展会友。白日展会員。</p>
A-11	講義 (デザイン)	教授 鳥宮尚道	デザインにできること、求められること	<p>私たちが身の回りで使う“モノ”のデザインを事例に、デザインがこれまでどのように発展してきた、これから先どのように進化していくのだろうか、という流れを豊富な資料を紹介しながら解説します。</p>	<p>筑波大学大学院芸術研究科を修了後、東北芸術工科大学生産デザイン学科助手、京都工芸繊維大学工芸科学研究科デザイン学部門助教を経て本学講師、2017年より准教授。博士（学術）。専門は情報デザイン、プロダクトデザイン。生活の中で使用する道具やサービスに求められるニーズを定性・定量の両側面から探り、使う人のことを考えてデザイン、提案することを企業、行政、地域とともに実践した経歴を持つ。</p>

A-12	講義 (デザイン)	教授 島名 毅	今からはじめるアート (デザイン) 思考	VUCA (ブーカ) ワールドとは「Volatility=変動」「Uncertainty」=不確実」「Complexity=不確実」「Ambiguity=曖昧」の頭文字をとった今の世の中を指した言葉です。このような世の中で生きていくために必要なアート思考・デザイン思考と呼ばれる考え方についてレクチャーします。	1977年東京生まれ、千葉県育ち。東京藝術大学美術学部デザイン学科卒業・同大学修士課程デザイン専攻修了。同大学教育研究助手・助教を経て札幌大谷大学メディア表現領域グラフィック専攻准教授。専門はデザイン学、アートディレクション。グラフィックデザインを中心とした媒体を主に扱うが、近年は地域デザインのディレクションやフィルムアーカイブなど様々な活動を行っている。サブカルチャー (アニメ) にも造詣が深い。
A-13	講義 (デザイン)	講師 戸澤逸美	日本と海外の素敵なデザイン	私たちが住む日本はたくさんの素敵なデザインに溢れています。大都市だけではなく、地方に目を向けてもそこにはアイデアや工夫を凝らせたデザインがたくさんあります。また、日本の外にも目を向けてみましょう。海外のデザインもまた同じです。様々な地域のデザインを紹介し、日本との違いにも目を向けます。	北海道岩見沢市生まれ。北海道教育大学教育学部岩見沢校芸術課程美術コース卒業。ポズナン芸術大学 (ポーランド) 大学院修士課程修了 (グラフィックデザイン専攻)。 その後企業にてグラフィックデザイナーとして勤め、パッケージデザインなどに携わる。現在はイラストレーションの制作も行う。
A-14	講義 (デザイン)	教授 小町谷圭	コンピューターで映像編集を始めよう	アートやデザイン分野では、コンピューターを使った映像編集は欠かせないものになっています。業務用の編集ソフトを利用したポストプロダクションと呼ばれる作業も気軽に始められるものになりました。では何を留意して、どこから始めれば良いのでしょうか。これから始めたい人向けの、入門講座です。	東京生まれ、東京藝術大学美術学部先端芸術表現科卒業・同大学大学院美術研究科先端芸術表現専攻修了。同大学、武蔵野美術大学映像学部の非常勤講師を経て現職。絵画制作を経て電子メディアを使用した作品を多数発表。専門はタイムベースド・メディア、メディアアート・プロジェクトなど。

A-15	講義 (デザイン)	講師 宮本一行	インタラクシオンデザインの可能性	<p>21世紀以降の現代社会では、人と人をつなぐさまざまなデザインを見ることができます。そうした中で、人と人だけではなく、人とモノや、人とコトを繋ごうとする新たな表現が誕生してきました。本講義では、それらの事例を紹介していきながら、世界に応答するデザインのあり方を広く学んでいきます。</p>	<p>千葉県生まれ。武蔵野美術大学大学院造形研究科（デザイン専攻）修士課程修了（造形）。武蔵野大学環境研究所、秋田公立美術大学大学院助手を経て、現職。専門はインタラクシオンデザイン、映像・音響メディア。</p> <p>身の回りの環境に潜む音や光などの根源的な現象に着目した活動を展開し、作品を通じて人間と環境の相互作用のあり方を探究する。また、建築・美術・音楽など、領域の異なる専門家たちと表現を介した協働プロジェクトにも多数取り組んでいる。</p>
------	--------------	------------	------------------	--	---

美術に関する創作活動の支援をします。

- ・ 学校に美術の授業や美術クラブがなく指導が受けられない人
- ・ どんな画材(道具)を使用したらいいのかお悩みの人
- ・ 自分の作品を専門の先生に評価をしてもらいたい人
などを支援します。

問合せ先 入試広報課

【地域社会学科】

■出張講義

申込番号	分野	担当	講義名	講義内容	プロフィール
S-1	社会学	教授 西脇裕之	防犯まちづくりの光と影	「人を見たら泥棒と思え」。「渡る世間に鬼はない」。あなたはどちらの言葉にリアリティを感じますか。この講義では近年の犯罪と防犯活動についての市民意識を確認した上で、防犯まちづくりを支える環境犯罪論という考え方を解説します。また、防犯まちづくり活動がもたらすプラスとマイナスの影響について受講生と一緒に分析しながら、高校倫理における「幸福と功利」の学習へつなげて考えます。	慶應義塾大学社会学研究科後期博士課程単位取得退学。専門は社会学説史。主な研究テーマは、コミュニケーションの意味を送り手の意図ではなく受け手の反応に求める相互行為論の発想とプラグマティズムというアメリカの哲学的伝統との関連、その応用編として都市環境におけるコミュニケーションや行動の誘導についても研究を広げる。本学においては社会学部開設以来、社会学基礎という社会学の入門講義を担当。
S-3	キャリア	教授 和田佳子	どうする？進路選択：高校生のためのキャリアデザイン	将来の夢や、やりたい仕事は見えてきましたか？ その夢を実現させるために今取り組んでいることはありますか。まだまだ自分の適性がわからず、先が見えずに不安を感じているという人も少なくないでしょう。そもそも、働かって、どういうことなのでしょう。将来に対する不安を少しでも解消するために、高校生の今、やっておくべきこと・考えておくべきことをキャリアカウンセリングの手法を用いて探ってみます。	藤女子大学文学部英文学科卒業。札幌市内のホテルで社長室秘書勤務の後、教職に就く。國學院短期大学、北海道武蔵女子短期大学教授を経て、2012年から現職。専門はキャリア教育。産業カウンセラー、キャリアコンサルタントとして日々、学生や卒業生の様々な相談に応じている。著書に『働く女性』（文真堂）、『秘書ビジネス論』（紀伊国屋書店）、『若者の地域志向とソーシャル・キャピタル』（中西出版）など。札幌市教育委員会点検評価委員。現在は「ビジネス分野における学修成果・職業コンピテンシーの汎用性と専門性に関する日韓比較研究」に取り組んでいる。

S-4	社会学	教授 西浦 功	大震災。その時あなたはどうしますか？（ワークショップ形式）	<p>2018年9月の胆振東部地震の時のように、震災には誰にとっても他人事ではありません。ブラックアウトで電気が使えなくなる等、震災は我々の生活に様々な形で被害を及ぼします。このような極限状態に置かれたとき、どのようにすれば安全な生活を取り戻すことができるでしょうか。</p> <p>震災に関する学びとグループワークを通して、震災後の状況をうまく乗り切るための方法を参加者みなさんで一緒に考えてみましょう。</p>	1972年北海道稚内市生まれ。北海道大学大学院博士課程満期退学。日本女子大学、北翔大学を経て現職。専門は福祉社会学。「福祉のまちづくり」を主たる研究テーマとして、福祉ボランティア活動や在宅福祉サービスにまつわる調査研究を行ってきた。近年では、「買物難民」問題をはじめとして地域で孤立する住民の生活ニーズを把握し支援策を検討するため、美唄市におけるフィールド調査を進行中である。
S-5	英語	教授 石川希美	英語で表現してみよう	<p>この講義では、英語で各自が自分の思いや考えを書いて表現するのがねらいです。書くことは、自分の知っている表現を使う機会であり、使いたい表現を探す機会にもなるでしょう。また、それぞれが書いたものを発表しあうことで、自分では気づかなかったことを知るかもしれません。これは、自分の考えを発表する、他の人の発表（考え・意見）を聞いてさらに考えを深めていくといった大学での学びを体験することにもつながります。</p>	米国カリフォルニア州立大学ロングビーチ校言語学科（TESOL専攻）修士課程修了。これまで道内の中高一貫校、専門学校、高等教育機関に勤務。通訳や外国語ボランティアの経験もある。現在は、英語を話す流暢さを高めることについて研究している。主な研究分野は、英語教育、ライティング、教科教育実践指導、ESPなど。
S-6	経営学	准教授 太田 稔	探求学習で使えるSDGs講座 社会課題を解決するソーシャル・ビジネス入門	<p>私たちを取り巻く社会は常に変化しています。環境問題や格差社会、少子高齢化、空き家問題などあげればきりがありません。この授業では、SDGsの視点を中心に社会的課題とは何かを知り、それを解決するソーシャル・ビジネスがどのような活動なのかを掘り下げることで、どのように企業が社会に貢献しているのかを考えます。</p>	小樽商科大学大学院商学研究科アントレプレナーシップ専攻修了。経営管理修士（専門職）MBA。実務家として22年間、企業や行政、市民団体や教育機関などへの環境教育研修、環境CSR支援などに従事。現在はソーシャル・ビジネスの戦略形成プロセスに関する研究を継続中。専門は「経営戦略論」、「ソーシャル・ビジネス」、「環境CSR」、「環境教育」。著書に「親と子の週末48時間（小学館）共著」など

S-7	経営学	講師 丸山宏昌	ゲーム体験で学ぶ SDGs×地方創生	2016年に国連で採択された持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）をきっかけに、世界各国で取り組みが進む中、我が国でもSDGsをどのように達成するかの議論が繰り広げられています。まずはゲームを通して楽しく体験し、SDGsそのものがどういったものか、そして、大学の学びとどうつながるのか、どう生かしていくかを考えます。	13年間システムエンジニアとしてさまざまな分野のエンジニアとチームを組みシステム開発に従事。その後、人材育成会社に転職し、現職に至る。担当科目は情報処理演習。専門は組織社会学、人材開発論。学びと組織をめぐる現象について学習理論、情報、地域マネジメント、コミュニケーション論の視点から読み解くことが研究テーマ。大人の学び・成長を支援することに関心を持ち、企業・組織における人々の学習・成長・コミュニケーションについて研究している。
S-8	経営学	講師 山田政樹	グローバル社会で生き抜く力	昨今では国内外問わず企業のグローバル化が進み、社会で活躍するためにはグローバルな多様性を取り込む必要性があるといわれています。この講義では自分自身がグローバル企業で活躍してきた経験を基に、大学入学から現在に至るまでの軌跡を事例として、何を思い、何にぶつかり、何を行ってきたのか、経験談をお話します。高校生にはこれから生きていくために、何を行っていくべきか、何を身に着けるべきか、自分で未来を切り開くヒントとなるお話ができればと思っています。	小樽商科大学大学院商学研究科アントレプレナーシップ専攻修了、経営管理修士（専門職）。ドイツに本社を置くヨーロッパ最大級の大手ソフトウェア会社で、国内外で活躍するグローバルITコンサルタントとして従事。プログラミングやシステムエンジニアリングなど10年以上のIT業界でのキャリアを持つ。近年は地域で活躍できるグローバルビジネスパーソン育成のため、特定用途向けの英語（ESP）学習プラットフォーム作成や、人的資源管理、マーケティングなど経営学関連の研究にも携わっている。
S-9	法学	講師 津幡笑	18歳から大人～成年年齢引き下げに伴う法律トラブルを予防しよう	契約ってなんだろう？ 18歳成年を迎えてできることできないことを学び、消費者トラブルに巻き込まれないためにはどうしたらよいかを考えます	北海道大学大学院法学研究科博士後期課程単位取得満期退学。北海道大学法学研究科COE/GCOE研究員、法学研究科附属高等法政教育研究センター協力研究員を経て現職。専門は知的財産法。著作物の類似性、営業秘密、競争禁止義務に関する論文を執筆してきた他、近著として『18歳からはじめる知的財産法』を分担執筆。

S-10	文学	講師 上戸理恵	日本語ライティングの基本	SNSやメールでのコミュニケーションが一般化した昨今、「日本語を使って書く」機会はこれまで以上に増えています。大学ではレポート作成をはじめ、高度な文章作成のスキルが必要になりますが、そこで気をつけてほしいポイントは、日常的な文章作成の場面で求められることとも共通しています。誤解なく相手に情報を伝えるために、どのようなことに注意したらよいのかを学びます。	藤女子大学文学部卒業。北海道大学大学院文学研究科修士課程修了。同博士後期課程単位取得満期退学。これまでに、非常勤講師として複数の大学で日本語表現や文学の授業を担当。専門は日本の近現代文学。共著に『大学生のための日本語表現』（鼎書房）、『〈戦後文学〉の現在形』（平凡社）がある。
S-11	社会学	准教授 仙波希望	都市を／から学ぶとはどういうことか	当たり前ものとして考えている「都市」。しかし、歴史上さまざまな国や地域において「その場所が誰のものか」をめぐってこの「都市」は争点であり続けました。昨今、持続可能性の観点から問い直されている「都市」のありかたを、19世紀中葉のロンドン・マンチェスター、1960年代のニューヨーク、そして2020年代の日本の諸地域を題材に、共に考えてみましょう。	東京外国語大学大学院総合国際学研究科博士後期課程国際社会専攻修了。博士（学術）。専門は都市研究、カルチュラル・スタディーズ。主な著書に『惑星都市理論』（共編、以文社、2021）、『忘却の記憶』（共編、月曜社、2018）。主な業績に「「平和都市」の「原爆スラム」」（『日本都市社会学会年報』、2016、第7回日本都市社会学会若手奨励賞受賞）。近刊として『ありふれた〈平和都市〉の解体

■ 講演会

※教員研修やPTA研修などの講演会へ本学の教員を講師として紹介いたします。

申込 番号	担当	講演会テーマ	講演会内容	プロフィール
SL-1	教授 梶井祥子	地域社会とダイバーシティ	人口減少のなかで地域社会はどのように生き残っていくのでしょうか。世代、性別、国籍、障がいの有無にとらわれず、多様な人々が地域社会のコミュニティに参画していくことが重要です。地域のダイバーシティ（多様性）の実現は必須です。そのために、私たちが考えなければならないことは何でしょうか。	慶應義塾大学法学部卒、北大大学院修士課程修了。専門は、社会学、家族社会学、ソーシャルキャピタル論。「親の離婚を経験した子どもたち」、「地域とつながる子育て支援」、「道内高校生の地域志向」、「スウェーデンの高齢者と家族」、「外国人労働者と共生社会」などをテーマに研究調査を実施。札幌市子ども子育て会議会長、札幌市男女共同参画審議会会長、北海道創生協議会委員などの公職を歴任。最近の編著書は「若者の地域志向とソーシャル・キャピタル」。
SL-2	教授 西浦 功	大震災。その時あなたは どうしますか？	2018年9月の胆振東部地震のように、震災には誰にとっても他人事ではありません。ブラックアウトで電気が使えなくなる等、震災は我々の生活に様々な形で被害を及ぼします。このような極限状態に置かれたとき、どのようにすれば安全な生活を取り戻すことができるのでしょうか。近年の様々な震災時の諸問題とその解決にかんする様々な事例を紹介しつつ、震災後の状況をうまく乗り切る方法について解説します。	1972年北海道稚内市生まれ。北海道大学大学院博士課程満期退学。日本女子大学、北翔大学を経て現職。専門は福祉社会学。「福祉のまちづくり」を主たる研究テーマとして、福祉ボランティア活動や高齢者向け在宅福祉サービスにまつわる調査研究を行ってきた。近年では、「買物難民」問題をはじめとして地域で孤立する高齢者の方々の生活ニーズを把握し支援策を検討するため、美唄市におけるフィールド調査を進行中である。
SL-3	准教授 太田 稔	自然環境とSDGsビジネス 生物多様性保全の重要性について考える	日本は自然豊かな国であり、その中でも北海道は自然資源に恵まれた環境にあります。しかし人間活動により北海道だけではなく地球環境全体が危機に陥っています。この授業では、生物多様性や自然環境という視点から環境問題を見つめなおし、自分たちのライフスタイルの在り方を考えます。	小樽商科大学大学院商学研究科アントレプレナーシップ専攻修了。経営管理修士（専門職）MBA。実務家として22年間、企業や行政、市民団体や教育機関などへの環境教育研修、環境CSR支援などに従事。現在はソーシャル・ビジネスの戦略形成プロセスに関する研究を継続中。専門は「経営戦略論」、「ソーシャル・ビジネス」、「環境CSR」、「環境教育」。著書に「親と子の週末48時間（小学館）共著」など

SL-4	講師 津幡 笑	パクリ？オマージュ？イラストの類似性	インターネット上で時折「トレス疑惑」が炎上し、絵画的な著作物の類似性が問題になることがあります。モラルの観点ではなく著作権法上の論点的を絞り、イラスト・絵画・写真表現の著作物の類似性が争われた裁判例をもとに、法的な線引きはどのあたりになるのか事例を解説していきます。	北海道大学大学院法学研究科博士後期課程単位取得満期退学。北海道大学法学研究科COE/GCOE研究員、法学研究科附属高等法政教育研究センター協力研究員を経て現職。専門は知的財産法。著作物の類似性、営業秘密、競争禁止義務に関する論文を執筆してきた他、近著として『18歳からはじめる知的財産法』を分担執筆。
SL-5	講師 上戸理恵	テンプレート文章作成法	何か文章を書くときに、「テンプレート」（定型文）を使う場面は少なくありません。レポート・論文を書くときも、定型表現を上手に使いこなしながら調査報告や論証をすることが重要です。社会人として実用文（報告書や提案書）を書くときにも、テンプレートを使いながら、その人ならではの論点や気づきを盛り込むことが求められます。テンプレートを使って文章を書くときのコツをお話しします。	藤女子大学文学部卒業。北海道大学大学院文学研究科修士課程修了。同博士後期課程単位取得満期退学。これまでに、非常勤講師として複数の大学で日本語表現や文学の授業を担当。専門は日本の近現代文学。共著に『大学生のための日本語表現』（鼎書房）、『〈戦後文学〉の現在形』（平凡社）がある。

SL-6	准教授 仙波希望	〈平和都市〉とは何か	<p>「広島は原子時代という世紀を擁する原子爆弾で潰滅し、後詔勅にもお述べになっているように、これが終戦への一つの導因となった。広島は全世界の人々の眼にクローズアップされたのだ。戦争へ原子爆弾が登場したことが世界歴史から永久に抹殺されぬと同様広島もまた歴史上特筆さるべき都市となったわけだ。[...] 私はこの広島が戦争終結をもたらした平和への記念都市となるため全世界の有志から復興資金、資材を募りたいと思う。瀬戸内海大観光地帯のセンターポイントとして広島は永世中立の一大文化都市としたい。」</p> <p>これは1945年12月19日付の中国新聞朝刊に掲載された、楠瀬常猪(くすのせ・つねい)広島県知事の復興構想の抜粋です。周知の通り、当時の広島は原爆の傷跡が色濃く残る文字通りの「焼け野原」でした。ゆえにその場所を「瀬戸内海大観光地帯のセンターポイント」としたいとする楠瀬の言葉は、当時の状況に鑑みても異質に見えます。そして現在の広島は確かに、巨大な観光都市としての様相を呈しているでしょう。</p> <p>この広島を題材に、「平和都市」「観光都市」を標榜するに至る都市の展開を丹念に検討したいと思います。まさに「国際平和文化都市」の文字通り看板を掲げるこの街は、いかにしてこうしたスローガンを彫琢し、そして都市空間へと広げていったのでしょうか。あえて19世紀から20世紀までと射程を広めにとり、〈平和都市〉の転回、ダイナミズムを明るみに出すことを目的とします。</p>	<p>東京外国語大学大学院総合国際学研究科博士後期課程国際社会専攻修了。博士（学術）。専門は都市研究、カルチュラル・スタディーズ。主な著書に『惑星都市理論』（共編、以文社、2021）、『忘却の記憶』（共編、月曜社、2018）。主な業績に「「平和都市」の「原爆スラム」」（『日本都市社会学会年報』、2016、第7回日本都市社会学会若手奨励賞受賞）。近刊として『ありふれた〈平和都市〉の解体——広島をめぐる空間論的探求』（以文社、2023刊行予定）。</p>
------	-------------	------------	---	---

【保育科】

■出張講義

申込番号	分野	担当	講義名	講義内容	プロフィール
C-1	入門講座	保育科専任教員	保育者入門	保育者になるための資格の種類と内容、取得のための勉強や求められる資質、就職の動向に関する情報などをお話しします。保育者志望の方だけでなく、志望について迷っていたり、進路を決定していない方も受講可能です。内容はご希望に応じて調整いたします。	
C-2	保育原理	准教授 大澤亜里	子どもの権利と保育	「子どもの権利条約」では、0歳の赤ちゃんから18歳までを「子ども」と捉えています。しかし「子ども」たちは自分の権利について学ぶ機会が限られています。この講義では、「子どもの権利条約」はなぜつくられたのか、子どもにはどのような権利があるのかを学び、子どもの権利を尊重した保育のあり方について考えます。	北海道大学大学院教育学院博士後期課程修了。博士（教育学）。専門領域は教育福祉。国連子どもの権利条約の成立に影響を与えたとされているポーランドの教育学者ヤヌシュ・コルチャックの思想と実践に関心を持ち、ポーランドに留学。ワルシャワ大学にて研究を行い、修士号を取得。教育と福祉の歴史から、また現在の子どもを取り巻く様々な問題から、子どもの権利の意味について検討している。
C-3	心理	教授 星信子	赤ちゃんとのコミュニケーション	赤ちゃんは人と関わるための基本的な力をもって生まれてきます。生後間もない赤ちゃんの持つ力とその意味を学び、赤ちゃんとのコミュニケーションの大切さについて考えます。	北海道大学大学院教育学研究科博士後期課程単位取得中退（教育学修士）。専門分野は発達心理学。人の様々な行動や感情の感じ方・表し方の個人差を表す概念である、気質の発達に関心を持って研究に取り組んできた。最近では、乳幼児の気質自体の発達に加え、それを支える子どもの心身の特徴や、養育環境の特徴に注目して観察や調査などを行っている。著書：「子どもの育ちを支える発達心理学」「子育ての発達心理学」など

C-4	自然	教授 柘植純一	子どもと自然とのかかわり	最近の子ども達は自然との触れ合いが少なく人工的な物で遊ぶことが多くなっています。幼児期の自然とのかかわりがなぜ大切なのか、自然とかかわる体験を通してどのような育ちが期待されるのかについて考えましょう。	岩手大学大学院連合農学研究科博士課程後期生物資源科学科ゲノム工学専攻修了。博士（農学）。日本環境教育学会、子ども環境学会、日本食育学会、日本農芸化学会、日本水環境学会会員。現在は幼稚園・保育所における環境教育、幼児と身近な小動物との触れ合いについて、保育者養成の視点から検討している。
C-5	音楽	教授 松井亜樹	子どもと音楽のかかわり	子どもの発達過程を踏まえながら、表現する力を育めるよう保育の現場で役に立つ音楽の知識、技術のアドバイスをします。実際に手作り楽器を作って演奏したり、手遊びをしたりしながら、表現活動を実践します。講義の実施には、ピアノもしくはキーボードが必要となりますが、ない場合は、聴く活動（サウンドスケープの活動）に取り組むこともできます。（手作り楽器を作る場合は、折り紙、セロハンテープ、のり、はさみなどが必要となります）	北海道教育大学教育学部札幌校芸術文化課程（音楽コース）卒業。同大学院教科教育専修音楽教育専攻（声楽分野）修了。ロシア・サンクトペテルブルグ音楽院マスタークラス修了。全国大学音楽教育学会会員。平成28年度札幌文化奨励賞受賞。平成28年度札幌文化奨励賞。平成25～令和元年度教員免許状更新講習講師。平成25年、平成27年札幌私立幼稚園教育研究大会分科会講師。令和元年度第2回北海道私立幼稚園協会経営・リーダー研修会パネリスト。令和4年度、5年度幼児教育初任保育者研修一般研修2期講師。北海道幼稚園教諭養成連絡協議会理事。乳幼児期の歌唱表現活動について研究し、ロシアの音楽教育との比較研究も行っている。
C-6	美術	教授 加藤雅子	子どもと造形教育	園や学校における造形教育のあり方について、実践例などを通して共に考えます。「描きたい、つくりたい！」という気持ちの高まり、「どうやって描こうか、つくろうか。」という試行錯誤、思考判断、「できた！みんなに観てほしい。」というさらなる意欲の醸成など、表現活動・ものづくりは自分づくりでもあります。園や学校での指導の大切な指針である教育指導要領、学習指導要領のポイントなどに絡めながら学びます。	北海道教育大学教育学部札幌校芸術文化課程（美術コース）卒業。 大学卒業後32年間、中学校美術、小学校教諭。平成30年3月まで札幌市立栄東小学校校長を勤めた。その間、子どもの造形教育を中心に授業研究を行い、札幌市造形教育研究連盟会長を歴任。その後、北海道教育大学札幌校で教員養成に携わり、2023年から現職。本学においては、子どもの心と美術教育・幼小の連携が研究テーマ。公認心理師でもあり、スクールカウンセラーとして心のケアを必要とする児童生徒、保護者の相談にも携わってきた。

C-7	子育て支援	講師 遠山景広	子ども・子育てと私たちの社会	<p>子どもたちの生活する社会の姿について、身近な場を例に考えていきます。子どもの目線や視界では、いつもの場所がどのように見えるのかなどを体験しつつ、子どもたちが生活する場所はどんな場所なのかを感じてみましょう。さらに、そこでの活動にはどんな人が・どのようにかかわることが出来るのか、皆さんの得意なことを例に、様々な可能性に気付いて「子育て支援」のことを知ってみましょう！</p>	<p>北海道大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得退学。専門分野は都市社会学、福祉社会学、子育て支援。大学院時代から、市内の地域子育て支援拠点でボランティアとしてかかわりながら、地域子育て支援の研究を進めてきた。人とのかかわりが薄れやすい現代社会の中で、子どもや子育て家庭を孤立させない・したままにしないために、「地域社会」をいかに子育ての場としていけるか、現場での経験を活かし共同と協働の2つの視点から探っている。</p>
C-8	運動	准教授 田中住幸	子どもと楽しむ運動遊び	<p>幼児や児童と一緒に楽しむことができる運動遊びを紹介します。子どもたちの体力低下が現代的な課題としてあげられる中、幼児期から様々な遊びを通して体を動かすことが望まれています。楽しく安全に子どもたちに運動遊びを指導するポイントを学んでみましょう！（体育館や多目的室など、軽い運動ができる会場と、ジャージ・運動靴などの準備が必要になります）。</p>	<p>北海道教育大学大学院教育学研究科修士課程（教科教育専攻保健体育専修）修了。大学卒業後20年間、幼児や児童を対象にした、運動・自然遊びの指導に従事する。2013年社会人で大学院を修了した後、専門学校講師や飯田女子短期大学幼児教育学科教員を経て2021年より現職。子どもたちや保育者が体を動かすことを楽しむには、どんな仕掛けが必要かを考えることが研究・実践のテーマ。また、安心・安全な保育を行っていくための研修会講師や教材開発も行っている。</p>